

Y's Men International

YMI

WORLD



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

Only for private distribution to members

YMIワールド
2020-2021 No.2
日本語版



ワイズ運動ニュース協力関係の原則の再確認／YMIがマラリアパートナーシップに拍車をかけるべく100,000米ドルをグローバルファンドに寄贈／考察：新型コロナウイルスパンデミックの中での地域奉仕活動（ポール・リム）／環境問題：グリーン活動と環境（コリン・ランビー）／パーソナリティ：アルヴィッド・マルメ（1927-2020）、マリット・トルブ／私たちはどちらの側の歴史を読むべきなのでしょう？（マックス・エディガー）／歴史の断片：YMI-YMCA 協力関係の原則／マイクロヒストリー：アグネス・バレンタイン・グライムス - 優れたパートナー／時を超えたワイズの力／日本 - オーストラリアのIBC 締結、ケニア、ホンコンからのニュースほか

編集長のページ

読者の皆さまへ



例年であれば、アドベントの訪れとともに、歓声と陽気に包まれる時期になってきました。しかし、2020年は違います。新型コロナウイルスのパンデミックの厳しい現実と、物理的な距離を隔てることによって引き起こされた苦難、そして世界中の賃金と雇用の喪失によってもたらされ厳しい経済的現実があるからです。ウイルスの蔓延にある程度の緩和があると思っていた矢先に、多くの国で第2の波、そして第3の波がやってきました。私たちは、長い道のりを歩むことになりそうです。

今年の終わりの週には、蔓延をくい止めると思われるワクチンについての良いニュースがありました。全人類がワクチンを接種されるまでにどれくらいの時間がかかるのか、私たちには、わかりません。しかし、それまでの間、私たちは、ワクチンが私たちに接種されることを願って喜びましょう。

クリスマスを迎え、私たち全員は、心を込めて歌うのが大好きです。「もろびとこぞりて」は、あの輝かしい夜の羊飼いたちへの天使のメッセージと響き合います：「恐れるな。私は、すべての民に与えられる大きな喜びを告げる。」。クリスマスは、すべての人々のためのものであり、この一時的な状況の中で私たちを隔てる壁に関係なく、すべての人々のためのものです。私たちは、この希望と喜びのメッセージを何度も繰り返し聞きたいと思います。

今号は、世界YMCA同盟とYMIが歴史的な「協力関係の原則」(Principles of Partnership)に署名し、パートナーシップを再確認したというニュースから始まります。世界YMCA同盟のカルロス・サンビー総主事は、「会員数を最大化することではなく、適切な会員数と適切な協力関係を持つことで、影響力を最大化することを考えよう」と私たちに促しています。今日、世界が必要としているのは、人々の生活に永続的な影響を与えるような行動です。歴史のセクションでは、「協力関係の原則」がどのようにして誕生したのかを紹介しています。

表紙：マニラダウタウンクラブがモンタルバン地区で物品を配布 (P5参照)。

ワイズメンインターナショナル公式誌

国際本部:Ave Sainte-Clotilde 9, CH-1205 スイス

国際編集長:コシー・マシュ

日本語版翻訳グループ:田中博之(委員長、東京多摩みなみ)、

青木一芳(千葉)、朝倉正昭(東京世田谷)、

今城高之(横浜つづき)、利根川恵子(川越)、

太田勝人(東京町田スマイリング)、比奈地康晴(東京)、

倉田正昭(京都)、田尻忠邦(大阪)、谷川寛(大阪センテニアル)、

谷本秀康(東広島)、中井信一(奈良)

印刷:(株)三浦印刷所 三浦克文(岡山)

マックス・エディガーによる「魂の真言」は、当分の間、休刊となりました。しかし、今号では、マックスが「黒人の命も大切だ」(Black Lives Matter)に関連して友人たちの発言に反応して書いたフェイスブックの投稿が掲載されています。

いつものように各地域からのニュースが目立ちます。引き続き、活動報告や写真を送ってください。パンデミックに勇敢に立ち向かい、支援と助けを必要としている多くの人々のために助けの手を差し伸べたすべてのクラブメンバーを祝福します。これから頑張ってください。

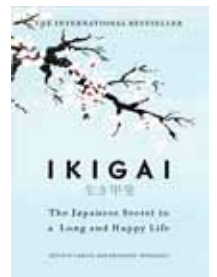
今年のクリスマスが明るい気持ちで年の瀬を迎えさせてくれますように、そして新鮮で明るい新年を迎えられますように。メリークリスマスそしてハッピーニューイヤー!

ワイズリー

コシー・マシュ

私の本棚から

イキガイ。長く幸せな人生を送るための日本の秘訣 フランシス・ミラレス、ヘクター・ガルシア著



フランシス・ミラレスとヘクター・ガルシアが日本の高齢者の秘密を調査しました。日本のある地域では、なぜこれほどまでに高齢者が多いのか?活動的に過ごし続けるために何をしているのか?ストレスにはどう対処しているのか?彼らの社会生活は、どうなっているのか?これらすべてのことを、長くて幸せな人生への日本の秘密の「イキガイ」という言葉で解説しています。

「イキガイ」という言葉は、様々な方法で説明されています。簡単に説明すると、「朝起き上がる」理由です。あなたの存在理由です。フランス語では「レゾンデール」と言うでしょう。この本は、ある種の西洋療法(ロゴセラピーなど)ともリンクしていますし、次のような問いかけにもなるかもしれません。「なぜ自殺しないのか?」。それは厳しい質問ですが、本当に人生で何が重要なのかを考えさせられます。そこに、長く幸せな人生を送るための秘訣があるのです。その答えの中に、あなた自身の「イキガイ」があるのではないのでしょうか。これは、沖縄本島の住民が世界のどこよりも100歳を超える人が多い理由のひとつです。高齢だけでなく、相当な年齢まで活動的で幸せな生活を送っているからです。

本書では、「イキガイ」という言葉を「常に忙しくしていることの至福」と訳しています。「イキガイ」とは、実はあなたの情熱、使命そして職業の組み合わせなのです。あなたの「イキガイ」は、非常に明確なものであると同時に、まだ探しているもの(それ自体があなたの「イキガイ」かもしれません)でもあります。

沖縄のお年寄り、決して引退しません。あなたの「イキガイ」のいいところは、一度それを見つけたら引退したくないということです。90歳のお年寄りの中には、「予定がいっぱいあって、死ぬことは考えていない」という人もいます。彼らは、いつも朝ベッドから出る目的を持ち続けています。(An Independent reviewから)

協力関係の原則の再確認

世界 YMCA 同盟と YMI の総主事は、2020 年 8 月 29 日に協力関係の原則(Principles of Partnership)の合意書に署名しました。これは、YMCA と YMI とのあつれきの諸例を解消したり、やわらげてきたりした近年の努力を認め、諸レベルでの協力を強めるための道を開くものです。

世界 YMCA 同盟とワイズメンズクラブ国際協会(YMI)は、先日、協力関係の原則の合意書に再び共同署名することによって、両者の強い協働関係を再確認しました。この合意書は、個別の、国単位の、地域ごとの、そして世界全体のレベルで、単独としての、そして共同しての成長と奉仕に資する新次元のパートナーシップを目指して、両者が共に働こうという願いを確認するものです。

それに基づき YMI は、8 月 8-10 日オンラインで開催された国際議会 2020 に世界 YMCA 同盟カルロス・サンヴィー総主事を招き、挨拶をいただきました。

カルロス総主事は、他の YMCA 指導者たちからの挨拶を伝えたのち、新型コロナウイルスが世界の YMCA にもたらした影響と、これに立ち向かう世界同盟の対処について焦点を当てた短いビデオを紹介しました。

ビデオの後、同総主事は、新型コロナウイルスによって、施設・設備を市民の利用に供している各地の YMCA が、その弱点を衝かれてどんなに影響を受けたかを追加説明しました。それによれば、最有力級の YMCA でも顕著な収入減に陥り、収入の流れは、全面的に 50-75% の落ち込みになっています(通常の事業規模を保っている YMCA は、4% しかありません)。収入減により、多くの YMCA は、雇用や事業の縮小に追い込まれました。ロックダウンや自粛規制が存続する(あるいはウイルスの再燃により再規制される)につれて、より多くの YMCA が活動停止を余儀なくされていくことでしょう。

しかし、この現状をただ受け入れるのではなく、YMCA は、次のような多面的な対処法を展開してきました。

- この状況を把握し、これに最善の仕方に対応するためのシナリオを策定すること
- 新型コロナウイルスが出現した社会の姿を正しく認識すること
- 変化したこの世界が求めるものを知り、それが従来のものでどう違うか、なぜ違うかを理解すること
- その求めに応える方策を立てるために努力すること



8 月 8-10 日オンラインで開催された国際議会 2020 において挨拶するカルロス・サンヴィー世界 YMCA 同盟総主事

ただしその方策は、青少年に信頼されるパートナーとしての YMCA の使命とモットーに即したものの、かつ財政的に健全で妥当なものであるべきである。

実行計画が「YMCA 新パダレイシ리즈」と呼ばれる会合を通じて立案される予定です。これは、特定の指導者たちのバーチャルな円卓会議で、第 1 回は、2020 年 7 月 7 日に開かれました。

発題後の対話の中で、YMI と YMCA のパートナーシップを明確にし、推進するための制度を開設すべきだということが強調されました。双方の経験豊富な

指導者の支援のもとに、各地のワイズと YMCA は、この制度の一員として、弛みなく、整然と、互いの維持発展のために活動することにより、役割を果たすことが求められます。内輪もめしては、双方の組織が双方の運動の発展を阻害することにしかありません。カルロス総主事は国際議員たちに、会員をただ最大化するのではなく、相応しい会員と相応しい実践的協力関係を確保することを考えてほしいと懇請しました。

YMI のジョース・ヴァルギース国際書記長が、再確認された協力関係の原則の合意を分かち合おうと述べつつ会を閉じました。その際、YMCA と YMI のあつれきの諸例を解消してきたり、やわらげてきたりした近年の努力を認め、この両組織間の競合は、遠からず単なる歴史の一齣になるであろうことを、国際議員たちに保証しました。(YMI ウェブサイトから)



YMI がマラリアパートナーシップに拍車かけるべく 100,000 米ドルをグローバルファンドに寄贈

YMI は、今年 12 月初旬に「世界エイズ・結核・マラリア対策基金」（略称：グローバルファンド）に対し、100,000 米ドルを寄贈しました。これは、世界的にマラリア根絶を支援するために 2019 年 10 月に締結された複数の団体からなるパートナーシップ協定における年度の約束を果たすものです。グローバルファンドは、100 か国を超える国々の専門家が運営しているエイズ、結核、マラリアの根絶への取り組みを促進するために、毎年 40 億米ドルを運用しその活動に投資しています。



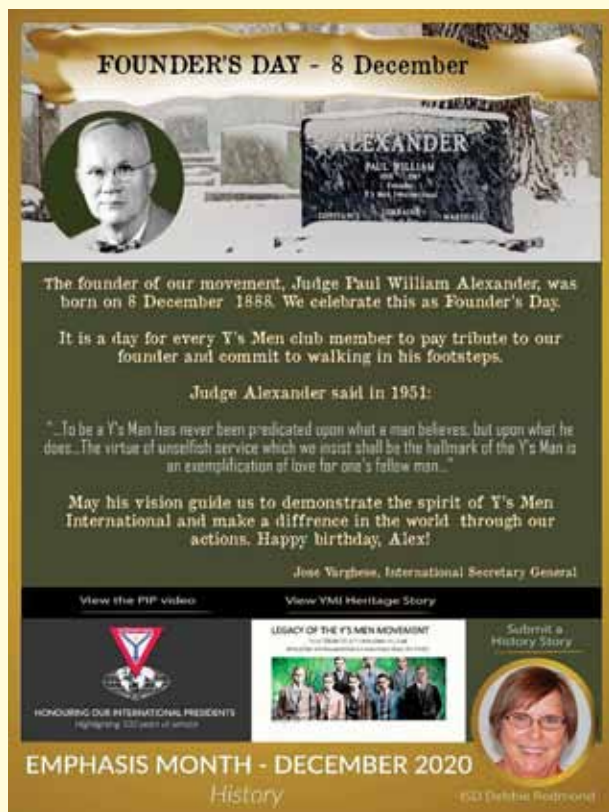
ワイズメンズクラブ国際協会は、世界 YMCA 同盟をパートナーとして、障壁を克服し、革新を受け入れるため各国政府、市民組織、技術機関、民間団体やこれらの疾病の被害者の方々と協力しています。ジェイコブ・クリステンセン国際会長、ジョース・ヴァルギース国際書記長そしてロールバックマラリア国際事業主任トニー・ラヤオは、それぞれ、ロールバックマラリア運動を支援し、さらに世界 YMCA 同盟とワイズメンズクラブ国際協会がマラリアのない世界の実現に向けて、グローバルファンドとその唱道活動に参加することを可能にしている、各クラブの会員の皆さんに深い感謝の意を表しています。



世界 120 カ国で 6,400 万人の人々にサービスを提供している世界 YMCA 同盟は、パートナーシップの中で世界的な唱道活動を調整するとともに、特に若者や最も弱い立場にある人々のマラリアの重荷を軽減するためのコミュニティー活動や直接的な活動を支援しています。英国政府の国際開発部門である英国国際開発省（DFID）は、各寄付金の 2 倍相当のファンドを提供しており、マラリアと闘うために 100 万米ドル近くの資金を確保しています。

「創立者の日」を祝って

忘れないために・・・



FOUNDER'S DAY - 8 December

The founder of our movement, Judge Paul William Alexander, was born on 8 December 1888. We celebrate this as Founder's Day.

It is a day for every Y's Men club member to pay tribute to our founder and commit to walking in his footsteps.

Judge Alexander said in 1951:

"To be a Y's Man has never been predicated upon what a man believes, but upon what he does. The virtue of unselfish service which we must shall be the hallmark of the Y's Man is an exemplification of love for one's fellow man."

May his vision guide us to demonstrate the spirit of Y's Men International and make a difference in the world through our actions. Happy birthday, Alex!

Jose Varghese, International Secretary General

View the PIP video View YMI Heritage Story

LEGACY OF THE Y'S MEN MOVEMENT

Submit a History Story

HONOURING OUR INTERNATIONAL PRESENTS

EMPHASIS MONTH - DECEMBER 2020

History



上の写真は、1920 年後半に創設されたトリムクラブの 17 人のオリジナルメンバーの内の何人かの写真です。このクラブは、のちにワイズメンズクラブと呼ばれるようになり、1922 年にカナダでクラブがチャーターされたときワイズメンズクラブ国際協会が設立されました。私たちは、開拓者の方々が持たれたビジョンと献身に敬意を表します。100 周年が近づいていますが、これらの献身的なボランティアの方から私たちにエネルギーが引き継がれています。

元アメリカ地域会長、国際ヒストリアン デビー・レドモンド

引用に値します

彼（ポール・ウィリアム・アレキサンダー）は、ワイズメンズクラブ国際協会を創設し、私たちと私たちの後の世代に遺贈しました。彼が創設者であり、立案者であり、名誉会長であったこの組織は、私たちをはじめ、何百万人もの人々に、YMCA、地域社会、そして人類全体に無私の奉仕を提供する機会を与えてくれました。YMI は、私たちに、世界中の友人、忘れられない親睦、喜び、満足感を与えてくれますが、これらは、すべて報酬のない奉仕を提供することで得られるものです。

元国際会長 ベンソン・ワブレ

YMI ワールド 2017-18 年第 2 号の記事から

「創立者の日」が世界中のクラブや区で 12 月 8 日に祝われました。上は、国際ヒストリアンであるデビー・レドモンドがこの日を覚えるために作成したチラシです。

新型コロナウイルスパンデミックの中での地域奉仕活動

フィリピン区元理事 ポール・リム

コロナウイルスの世界的感染拡大中の中でも、私たちは、地域奉仕活動を止めることは出来ません。ワイズメンズクラブ国際協会に所属するサービスクラブとして、義務と責任のひとつとして、私たちは、地域への奉仕と慈善事業を行う方策を見つけていきます。

フィリピン区では、20歳未満および60歳以上の者は家にいて、外出を控えるようGCQ(General Community Quarantine(一般的コミュニティ隔離措置))で要請されています。肺、心臓、糖尿病疾患等のある方などリスクが高い者も外出が出来ません。しかし、当区の大部分のワイズメンズクラブには、21歳から60歳までの若く、逞しく、エネルギーに満ちたリーダーたちがいます。

クラブ会員は、3つのT、すなわちTime(時間)、Talent(才能・賜物)、Treasure(財物)を分かち合うことができ、地方自治体からのガイダンスを踏まえて、地域奉仕活動プロジェクトの組織化に携わっています。

このパンデミックの中でも第一線で活躍される人々への支援拡大に加えて、私たちは愛や、情熱や、思いやり等を「生活上の弱者」の兄弟・姉妹の皆さんや、あるいは政府の施策が届かないかもしれない方々に手を差し伸べるべきです。

私たちは、真のサーバントリーダーとしてパンデミックの困難さに勇敢に立ち向かって、支援を必要とする地域に品物やサービスを提供している2つの素晴らしいクラブを持っていることを誇りに思います。

ラハ・フィリピンクラブ(会長:ジョセフ・ウイチング)とそのスポンサークラブであるマニラダウンタウンクラブ(会長:アレックス・ユー)は、会長就任後2か月の間に、意見を共有するに至りました:

ラハ・フィリピンクラブは炭酸カルシウムや葉酸の入った硫酸鉄などを入れた箱をマニラにある警察署や消防署、病院など公共施設に届けました。



マニラダウンタウンクラブ会長アレックス・ユーがモンタルバン地区の住民に米を贈呈

届けた物の中には、マニラ消防署向けに330着のレインコートや、交通事故で車内に閉じ込められた人の救助道具として、良く使われる水圧式カッターなどのラハ消防ボランティアへの贈呈品が含まれます。さらにミルクやビタミン類や医薬品や本や学童向け文房具用品など「シエラ・マドレ・プロジェクト」として50家族以上に贈呈しました。

同じく、マニラダウンタウンクラブは、「生活困窮者を支援する」グループとともに、600キログラムのジャスミン米をモンタルバン地区やりザル地区でのごみ置き場に住む貧しい清掃労働者の300家族に贈呈しました。時機を得た贈り物で、彼らに希望と愛と親切の精神を高めるのに貢献しました。

是非私たちは、より創造的な地域奉仕活動を試し、また、「強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う」という私たちのモットーを実践できるよう、より多くの人に、より多くの場所に私たちのワイズ運動への情熱が行き届くようにしようではありませんか。



ラハ・フィリピンクラブ会長ジョセフ・ウイチング(右)がラハ消防ボランティア代表のロナン・リーに品物を贈呈



ラハ・フィリピンクラブからラハ消防ボランティア代表のロナン・リーに「シエラ・マドレ・プロジェクト」の一環として救助道具を贈呈

環境問題

グリーン活動と環境

コリン・ランビー アジア太平洋地域 ブリテン / グリーン活動・環境地域事業主任



ワイズメンズクラブ国際協会が気候変動原因に対応するのは、旅行や化石燃料の使用などがあるからです。ワイズメンズクラブ国際協会は、会議や大会で排出する廃棄物の観点からも環境問題へ影響を与えています。

時には、行動がもたらす主たる影響が気候変動、あるいは環境に影響しているかどうか見分けることが難しいことがあります。私たち自身による気候変動への関わりへの低減あるいは、環境への負の影響は、ともに私たちが目指すべき対象です。



環境浄化プログラムの一環で公共の場所でゴミ拾いをするクラブ会員たち

気候変動あるいは地球温暖化は、表現の違いに関係なく、明らかに、大気中の温室効果ガスにより引き起こされていること、さらに、私たち人間が、過去のどの時代よりも極めて高レベルの温室効果ガス作り出しているということは、明らかであります。

私たちすべては、温室効果ガス排出の割合を減らすことが出来ます。以下に、私たちが行うことのできる行動例を挙げます。

＊航空機の使用を減らすかやめる；代替案としては、列車の使用、会議のオンライン化等が挙げられる。

＊車の運転を減らすかやめる；再生可能エネルギーにより充電された電気自動車の使用、公共交通の使用等

＊再生可能エネルギーの使用；各個人住宅、事業所の屋根への太陽光発電パネルの設置等

＊再生可能資源により発電された電力の購入が国によっては可能。たとえば、オーストラリア、日本など

＊廃棄物の低減、可能な限りのリサイクル、可能な限りの再利用

植樹

この件については、更なる議論が必要と思われます。これは、一見、温室効果ガスの削減（樹木による二酸化炭素の吸収）および環境の双方に良いように聞こえますが、植樹が必ずしも好ましい結果をもたらすとは限りません。ある植樹は、農村を撤去して行われます。また、ある植樹は、環境に対して破壊的な効果をもたらします。例えば、松の植樹は、下草の枯死をもたらし、森にすむ野生動物に対して悪影響を及ぼします。



温室効果ガス削減促進振興のため9,000 オーストラリアドル(約72万円)を「Discovery Solar」に献金したベンディゴクラブ

植樹は、温室効果ガスの吸収の観点からは好ましく、正しい樹木の選択は、植物相にも動物相にも良い結果をもたらします。

行動がカギ

各クラブは、環境に良い、あるいは、温室効果ガスを低減させるような良い企画を進めたり支援したりすることが出来ます。あるクラブでは、環境に良い「ゴミ清掃日」に参加しています。あるクラブでは、コミュニティの建物の屋根にソーラーパネルを設置するクラウドファンディングキャンペーンに募金することにより地域社会の「太陽光パネル屋根の設置」プロジェクトを支援しています。

私たちは、アジア太平洋地域で各区から2名が参加する「グリーンチーム」の活動を開始しようとしています。2名のうちの一人は、経験を積んだワイズマン、他の1名は、より若い人とするべきとの提案がなされています。経験あるメンバーと若いメンバー間で知識の交換がなされ、双方が積極的に気候変動、あるいは環境問題に深く関わって行くことが期待されます。ワイズメンズクラブ国際協会には、温室効果ガス削減活動に貢献するための「カーボンオフセット基金」が設置されていて、ワイズメンズクラブ国際協会リーダーの活動の結果排出する温室効果ガスを相殺しています。

詳しくは、ysmen.org/environment をお読みください。

アルヴィッド・マルメ(1927年～2020年)－模範となるメンター



2020年9月25日に93歳で他界した元国際会長・アルヴィッド・マルメは、私たちに多くの素晴らしい思い出を残してくれました。

私は、1980年に、妻と子供たちと一緒にオスロ郊外のアスカーに引っ越しました。私たちは、すぐに地元の教会であるオステンスタッドの積極的なメンバーとなりました。そこで出会ったアルヴィッド・マルメと妻のルースは、ともに教会の有力メンバーでした。年の差はありましたが、すぐにお互いのことをよく知るようになり、良い友人になりました。アルヴィッドは、すぐに私にワイズメンズクラブ国際協会を紹介してくれて、クラブの会合に出席するように誘ってくれました。最初は断りました。当時、私たちの子供たちは、とても小さかったのです。しかし、数年後、私はゲストとして参加しました。そこでは、私は、私たちの教会から何人かのよく知っている人々に会い、自分自身が交わりの中に含まれていて、よく気を遣ってもらっていると感じました。

私たちの子供たちは、学校に行き始め、教会とつながっているYMCAのスカウトのメンバーになっていたのので、いくつかの集会に参加した後、私は、オステンスタッド・ワイズメンズクラブのメンバーになることを決めました。私が正式にメンバーになったときに、入会式を司式したのはアルヴィッドでした。

その後、私がクラブ、部、区、地域、国際の様々な役職に就いた時、アルヴィッドは、私がアドバイスや指導を求めることができる、計り知れないほどの指導者であり、友人となりました。私が問題や課題を抱えているときには、いつでも相談できる人でした。彼は、いつもそばにいて、私よりも10年も20年

も前の経験を進んで分かち合ってくれました。

アルヴィッドは、大きな財産を残しました。つまり、1989年のベルリンの壁崩壊後のヨーロッパで起こったクラブ拡張とワイズ運動にかかわる活動に関して、彼は重要な役割を果たしました。これらの出来事が起こったとき、偶然にも、彼は、ヨーロッパ地域会長であり、国際議会のメンバーでした。そのため、彼は、鉄のカーテン時代以降の東欧におけるワイズメン戦略とクラブ拡張計画のために作成された新しいロードマップに影響力を持っていました。また、アルヴィッドは、ロシアを訪問し、当時のクラブのチャーターに参加しました。後にロシアのメンターとして、私がロシアを訪問した際には、ロシアのシニアのワイズメンにお会いすると、どなたも「ノルウェーから来たミスター・マルメ」と呼ばれていたアルヴィッドのことを覚えていてくれました。

40年以上にわたるワイズメンのための彼の献身的な活動は、ノルウェー区だけでなく、ワイズの世界全体に長く記憶されることになるでしょう。

深い敬意と感謝の意を込めて、ヘンリー・J・グラインドハイム
ヘンリー・J・グラインドハイムは、2017/2018年度国際会長、オステンスタッド・ワイズメンズクラブのメンバーです。



お茶を飲みながら友好を深める：アルヴィッドとヘンリーは、ワイズ運動の様々な問題を話し合うためによく会っていました。

マリット・トルプに荣誉あるバッジを授与

ノルウェー区は、30年近くにわたって、ワイズ運動のあらゆるレベルで献身的かつ無私の努力を続けてきたことに対して、元地域会長／元国際議員のマリット・トルプに名誉ある「荣誉のバッジ賞」を授与しました。この賞は、クラークロイ・ミックスト・ワイズメンズクラブの9月例会で、ノルウェー区元理事のペル・トリグベ・ノーマンから授与されました。この賞として、美しいバッジと感謝状が贈呈されました。

マリット・トルプは、クラークロイ・ミックスト・クラブ（1991年12月チャーター）のチャーターメンバーであり、これまでに5回クラブ会長を務めています。

マリットの関心は、主に友人の輪を広げること、フレンドシップ・クラブ、平和の分野にあります。グアテマラとノルウェー、特にパツン（グアテマラのチマルテナンゴ）とクラークロイ／フレデリクスタッドの間の地域社会での友好交流活動に長年参加してきたことで、平和プロセスにおける友情の重要性について大きな洞察を得ました。2012年には、パツン・ワイズメンズクラブのチャーターに参加しました。

2004/05年には、ロシアがノルウェー区の一部としてスタートしたため、ノルウェー／ロシア区の理事を務めました。2010/11年には、ヨーロッパ地域会長を、2009年から2013年までの4年間は、国際議員を務めました。

マリットさん、おめでとうございます。



クラークロイ・ミックスト・ワイズメンズクラブ会長の授与

私たちはどちらの側の歴史を読むべきなのでしょう？

マックス・エディガー

平和の学校(School of Peace: SOP)と呼ばれる3ヶ月間に亘るプログラムは、私たちの社会との関わりと対話に焦点を当てるためにアジア全域から20名の多様な若者を受け入れています。参加者は、国内の民族的、宗教的、社会的紛争に直面している国々や、隣国との国境紛争を抱えている国々の出身です。参加者間には、常に多くの相違が存在するので、時としてそれらの相違が高じて怒声の応酬を引き起こすことがあります。

ある午前中の討論で国境を接する2カ国のどちらが、国境のほぼ真上に位置する有名な山頂の寺院の所有権を持っているかを巡って感情的な言葉の応酬が始まりました。両者の怒りは高まり、ついに一方の参加者が「君は、歴史を読むべきだ！そうすれば、その寺院が我が国の物だと分かるはずだ！」と叫んだのです。

すると、午前中の討論会のまとめ役が議論に割って入って質問をしたのです。「私たちはどちらの側の歴史を読むべきなのでしょう？」

お二人とも自国の視点から歴史を勉強したのですから、大抵の場合自国側から見てその問題を理解しているのです。事によると双方の歴史から学ぶべき真実と誤謬が幾つかあるのでは。私たちは「唯一の歴史」を学ぶのではなく、単に「一つの歴史」を学ぶのです。」

真の意味で客観的に書かれた歴史など存在するのでしょうか。ですから、より深くより誤謬の少ない史実を見出すために、自分達とは異なる視点を学ぶ事が重要なのです。」

ベトナムでの経験が触発したもの

学生の頃、歴史は、退屈で私の生活と直接関わりがないと思ったので、歴史について学ぶ事に殆ど関心がありませんでした。その様な考えは1975年に全く変わってしまいました。それは、ベトナム戦争終結後1年間ベトナムに留まるという幸運に恵まれたからです。それは、私の心を広げ、目を開かせた多くの経験を積む極めて重要な1年間でした。私は、重要で胸がわくわくするような歴史の一コマを自分自身が生きている事を実感したのです。歴史は、私にとって現実となり、もっと学ぶ必要があると悟ったのです。調査を行い、文献を読み、多くの質問をし始めると直ぐに同じ出来事に異なる「歴史」が存在する事に気づいたのです。

その時気づいたのは、もし私が自らの経験と先入観に基づいてベトナム戦争の終結について歴史を書くのであれば、そ

れは、再教育収容所で過ごしたり、ボート難民となってより安全な他国に逃れたりしたベトナム人の友人たちによって書かれた歴史とは、かなり異なるだろうという事でした。たとえ私がベトナムで生活し、自分の目でベトナム戦争を見たにしてもベトナム



戦争の正しい全体像を理解していなかったのです。私は、共有する事のできた重要な歴史のほんの一部しか知り得なかったもので、より完全な全体像を理解するために他の異なる複数の視点も学ぶことを皆さんにお勧めします。

それが歴史の複雑さなのです。もし私が奴隷にされた人達の労働によってお金持ちとなった奴隷所有者の視点から奴隷制度の歴史を読むなら、また、もし自分たちの家族が売られ、大農園経営者の手に

よって恥ずかしめを受け、反抗した友人達が絞首刑にされるのを目の当たりにした奴隷の身となった人たちによって書かれた奴隷制度の歴史を読むなら、ふたつの歴史には、天地ほど差があることでしょう。その歴史の結果、今、私たちの地域社会の周りで起こっている出来事を私が理解したいと思うなら、どちらの歴史をより深く理解する必要があるのでしょうか。

もしラコタ族の長老達によって書かれたサウスダコタ州ブラックヒルズの歴史を読むなら、ラシュモア山に4人の大統領像を刻んだジョン・ガットスン・ボーグラムによって書かれた歴史とは極めて異なることでしょう。どうやらボーグラムは現地のラコタ族の人たちに全く敬意を払っていなかったようです。彼の描いたブラックヒルズの歴史がその事実を反映しています。どちら側の歴史が先住民族の人達が現在直面している諸問題を私が理解する上で最も役立つのでしょうか？

経験を基に歴史と関連付ける

まったく相反するこれらの歴史と自らをどのように関連付けるかは、私自身の人生経験、先入観、そして私の人生の指針である価値観に依存します。現状を維持する事で多くの利益を得る権力者によって書かれた歴史を私は、優先すべきでしょうか？それとも虐げられ、抑圧され、排除され、現状が変わらなければ多くを失う人達によって書かれた歴史を優先すべきでしょうか？どちらの歴史にも耳を傾ける必要があるのですが、どちらの側の歴史を読むべきか、私が現在多くの人が感じている痛み、苦しみ、疎外感を理解するには、どちらの言い

*マックス・エディガーは、カンボジアの「平和の学校」の運営責任者です。この記事は、彼のフェイスブックのページから本人の許可を得て転載されたものです。

12 ページへ続く

YMI-YMCA 協力関係の原則

YMIとYMCAの歴史的関係は、1970年代後半から1980年代初めにかけて、ワイズメンの概念と組織の誕生の地、アメリカ地域でのクラブ会員数の急激な減少を受けて検討が必要になりました。

会員数は、1965年の12,000から1982年には5,600に減少しました。アメリカ地域での会員数の減少については、はっきりとした原因は見つかりませんでした。すべてのタイプの奉仕クラブの会員数の減少がアメリカにおいて起こっていて、国際本部のアメリカ以外への移動とその後のアメリカ地域事務所の閉鎖も、多分影響していたかと思われます。しかし、その状況に関係していた人達の多くの意見は、かつて強かった米国のYMCAとY'sメンの関係が徐々に弱くなっていったからだとしています。

世界YMCA同盟とワイズメンズクラブ国際協会のボランティア会員とスタッフ指導者との間の歴史的会議が、1981年の1月16日に、スイスのジュネーブのジョン・R・モットハウスで開かれました。この会議において、「協力関係の原則」についての声明が草案されました。

この行動は、1929年にカナダのトロントで開催された国際大会で採択された決議に由来しています。要するに、この決議は、ワイズメンズクラブ国際協会がボランティア組織として、完全な自治を維持しながら、キリスト教青年会(YMCA)との緊密な関係を維持して活動することを認識していました。この決議は、その後カナダと米国両方のYMCA同盟に於いて認知されました。

ワイズメンズクラブ国際協会の、YMCAの、そしてYMCAのための世界的な団体としての成長は、この決議をいささか時代遅れなものにしてしまい、両組織の指導者たちは、世界YMCA同盟本部内へのワイズメンズクラブ国際協会本部事務局の設置によって変化した2つの組織の關係に鑑みて、声明の改定をすべき時期となっていると感じました。

それへの期待としては、その関係を広げ、再確認することによって、YMCAとワイズメンの間の新たな次元におけるパートナーシップが、両団体のクラブ、国、地域、国際レベルにおける成長と奉仕に貢献するであろうということがありました。

この背景と新たな目標を意識して、以下の、「協力関係の原則」が、ジュネーブにおける1981年の会議で提案され、採択されました。

*両者は、キリスト教精神に基づき、人々に奉仕することを目的とし、その奉仕は、あらゆる人々に対して、わけへだてなく行われることを確認する。

*両者は、まず両者の共通の目的が何であるかを自覚することから始め、その上で具体的課題、プログラム、事業を選定するという手順で協働・支援していくことにする。

*両者は、この過程で、同等の責任を負うことを確認し、構想の段階から計画の立案、資金負担、実施、反省、評価の段階まで、等しく分担することを期待する。

*両者は、協力していかなることを実行するにあたって、お互いに等しく恩恵を与え、また、恩恵に浴することを期待する。

*両者は、各地方や、各国、各地域、さらには世界のレベルで、各々自由に相互に参画し合うことができるようにし、このようにして、協力関係の強化を図ることを期待する。

*協力関係の効果は、両者の信頼と協力の上に成り立つものであり、協力関係を保持することで、お互いに多くの潜在的な恩恵が得られ、さらにお互いに協力し得る方法で助け合いながら、相互の発展を助長し合うことを認識する。このことは、特にYMCAがワイズメンの拡張とその会員の増加を、より一層強力に支援することによって逆に、YMCAのサービスクラブとしてのワイズの潜在能力が増大することでも明らかである。

この「協力関係の原則」の声明は、その後、世界中の多くの各YMCA、各国YMCA同盟、ワイズメンによって受け入れられ、再確認されています。さらに、ワイズメンズクラブ国際協会は、世界YMCA同盟のリーダーシップ・デベロップメントに対して、タイム・オブ・ファストプログラムを通して、3年間に20万米ドルの寄付を行うことを約束しました。60の開発途上国での約100の研修事業が実施され、3,500のYMCAの指導者がこの支援によって研修を受けました。

出典:「奉仕のフェロウシップ(A Fellowship of Service)ーワイズメン国際協会物語(75周年記念誌 1997年発行)



「協力関係の原則」は、世界YMCA同盟本部において、このワイズメンとYMCAの指導者達のグループによって起草された。

マイクロ・ヒストリー

アグネス・バレンタイン・グライムス:優れたパートナー

元アメリカ地域地域会長、国際ヒストリアン事業主任 デビー・レドモンド

ワイズに人生を捧げて来た人たちについて語る時は、いつも、アグネス・グライムスという名前が挙げられます。アグネス・バレンタインは、1894年2月13日に生まれ、1980年12月23日に亡くなりました。高校を卒業すると、アグネスは、店員として働き、学校に通い、やがて小学校の教師になりました(その職は、結婚するまで続いていました)。1925年10月10日、アグネス・バレンタインは、マサチューセッツ州でヘンリー・D・グライムスと結婚しました。新婚旅行を兼ねて、二人は、ヘンリーが彼の2度目となるワイズメンズクラブ国際大会に出席するためにテネシー州チャタヌーガに旅行しました。そこで、ヘンリーは、ポール・ウィリアム・アレキサンダーから、国際書記長/会計に指名され、選ばれました。ヘンリーは、1925年から1955年まで、選ばれた役職にボランティアとして就き、その後、1962年に亡くなるまでの間、ワイズメンズクラブ初の有給国際書記長となりました。

仲間のワイズメンによると、1925年の大会で若い新婚旅行中の二人がこう言ったとのことでした。

「これからは私が家の頭(かしら)です!」と新郎が勇敢に言いました。

「それなら私が首(ネック)になります。頭を回すのは首ですから!」とアグネスは、言いました。

完璧なパートナーシップ

ワイズメンズクラブ国際協会が年々発展するにつれて、国際書記長/会計の責任も大きくなりました。夫婦には子供がいなかったので、アグネスは、ヘンリーの手紙のやり取りを手伝い、彼と一緒に多くの会合に出席しました。マサチューセッツ州ローレンスのクインシー・ストリートにある自宅を、1940年に大規模な改修を行い、地下にワイズメンズクラブ国際協会の事務所を設けました(グライムスが費用を負担)。ヘンリーとアグネスは、ほとんどの仕事を自分たちでこなしました



AGNES V. GRIMES
Lawrence, Massachusetts
Indispensable Assistant
to Henry Grimes since 1925

が、最終的にはパートタイムのスタッフを雇うことが認可されました。

第二次世界大戦の終わりに、ヘンリーは、科学コンサルタントとして米国陸軍省のためにいくつかの仕事をするよう求められました。この仕事は、アメリカン・ウレン・カンパニー(American Woolen Company)(研究開発部門の責任者)の化学者としての彼の立場によるものでした。1945年から46年にかけて、ヘンリーは、衣料品会社との技術情報収集のためドイツに派遣されました。アグネスは、とどまり、彼の不在中、国際書記長/会計の事務所を運営しました。

1950年まで、アグネスは、文書の発送や受取りの処理を行い、手紙を読んでヘンリーが返信し易いように重要文書毎に整理をしました。さらに、支援パートタイムスタッフが11人追加されました。受け取った手紙の量は、1日あたり平均2~3ポンド(0.9 kg~1.3 kg)もありました。その量は、4月と10月の半年毎の報告期間中には大幅に増加し、1日あたりの平均は、最高で8ポンド(3.6 kg)にも達しました。

1955年、ヘンリーは、アメリカン・ウレン・カンパニーを退職し、初のフルタイム有給国際書記長になりました。クラブが増えて時が経つにつれ、1961年から会計の役職が別に選ばれるようになりました。このことで、ヘンリーは、手紙への返信、報告書作成、毎月のブリテン発行に専念する時間が増えました。

無私の奉仕

ヘンリー・グライムスは、1960年に妻のワイズメンズクラブの仕事について語った時に、妻は、33の国際大会と100を超える区大会に出席したと述べていました。

彼女は、これらの大会に自費で参加し、費用の請求を行いませんでした(時には海外分も含めて)。また、ヘンリーには給料が支払われましたが、自分たちの家の事務所の維持費は、ワイズからは支払われておらず、アグネスは、給料を受け取っていないと述べました。彼がフルタイム従事者になったとき、その健康保険は、彼の給料に含まれておらず、ヘンリーの亡くなった際の生命保険金15,000米ドルは、彼の未亡人ではなくワイズが受け取りました。

1962年12月、ヘンリー・D・グライムスは、65歳で亡くなりました。ワイズが彼の地位とグライムス家の国際協会事務所の扱い方を模索している間、アグネスは、進行中の事務処理を引き続き遂行することを承諾し、そして詳細が決まるまで事務所の監督を務めました。事務所がイリノイ州に移され、新しい国際書記長が任命されたのは1963年9月になってのことでした。

1965年、アグネス・バレンタイン・グライムスは、ハリー・M・バレンタイン賞(女性としては初)を受賞し、1980年12月23日に亡くなりました。ありがとう、アグネスへ、貴方の時間とエネルギーを注いだワイズメンズクラブ国際協会への献身に感謝いたします。



1950年代に、運動のリーダーたちとアグネス・バレンタイン

時を超えたワイズの力

元アメリカ地域会長、国際ヒストリアン デビー・レドモンド

最近、祖父の家の屋根裏部屋の片付けをしていたところ、謎のアイテムを見つけたという方からの問い合わせがありました。彼女の質問と写真を見て、私は、その答えを探す旅に出ることになりました。それは、日本のクラブからの2枚のバナーで、孫娘は、それがコロラド州の屋根裏部屋にどうやってたどり着いたのかを知りたいと思ったのです。孫娘が調べたところ、ワイズメンのエンブレムを見つけました。そこで、彼女は、国際本部に問い合わせ、それが国際本部から私に廻されてきました。



調査開始のきっかけとなった「ミステリーのれん」

まず、すべてのクラブが掲載されているヒストリーブックで彦根クラブを調べてみたところ、1952年にチャーターされたクラブであることがわかりました。私の考えでは、もしかしら、1950年代か1960年代にアメリカで開催された国際大会に参加したメンバーがいるのではないかと思いますのですが、YMIワールドに彦根クラブの記事(兄弟クラブについて)が掲載されていたのを見たとき



の私の驚きを想像してみてください。私は、日本のキーパーソンに質問メールを送り始めました。利根川恵子さんの協力のおかげで、島野喜道さんに、クラブ会長からのれんについて質問していただき、追加情報を得ることができました。島野さんは、1961年のシカゴ国際大会に



兄弟愛のもとでのれんの謎を解いた島野喜道(左)とコロラド州デュランゴのジョー&ローズ・クインタナは、同じ国際大会に参加

他の会員と一緒にいき、その際に台所や食堂の入り口に掛けられる「のれん」を持って行ったとのことでした。

約61年前に開催された国際大会の記念品が、出席した人々に、そして私たちに再び印象を残しました。2枚ののれんは、2人のBF代表とともに、アメリカ合衆国のモンタナとサウスダコタを経由して、シカゴ大会へと旅をしました。島野喜道さんと吹留辰雄さんの訪問については、いくつかの新聞記事で取り上げられました。

一方、コロラド州デュランゴからジョーとローズ・クインタナが同じ大会に行きました。彼らは、2人のBF代表と出会い、死後に遺品として残る記念品を持って帰宅した可能性があります。私たちは、是非、歴史の一部を他の会員に託すために、お土産や記念品を交換し続ける必要があります。60年後、あなたが大会や会議で贈ったものを誰かが持って現れるでしょうか。そうなることを願います。



1961年の国際大会

地域からのニュース

日本 - オーストラリア: Zoom での IBC 締結式

11月14日、アデレード Y サービスクラブ（オーストラリア区）と甲府 21 ワイズメンズクラブ（東日本区）が、Zoom で IBC の締結式を行いました。甲府 21 クラブのメンバーは利根川恵子国際 IBC 事業主任、田中博之地域 IBC 事業主任、板村哲也東日本区理事を含むゲストとともに甲府 21 クラブ設立 30 周年記念会の会場から参加し、アデレードクラブのメンバーは、同クラブに所属するラッセル・ジョーンズ元地域会長、ジェニファー・ジョーンズ直前国際会長の自宅に集まり、締結式が行われました。また、先日ハリー・M・バランタイン賞を受賞した YMI の IBC 一覧の編集者であるマレイ・スティーブンスがオーストラリアのパララットから参加しました。

Zoom の活用は、特に新型コロナウイルスパンデミックが発生している現在の状況下ではもちろんのこと、将来的に通常の状態に戻った時にも、締結式や日頃の IBC の会合などの IBC 活動に大きな可能性を秘めていることを示しています。

アジア太平洋地域 IBC 事業主任 / 直前会長 田中博之



オンラインによる締結式

ユニークなプログラム



「母性を尊重し、母親に感謝しよう」と題されたユニークなプログラムが、バンガロール第 2 部で始まりました。このプログラムは、様々なテーマに焦点を当てて 9 ヶ月間継続されます。10 月 24 日にはそのプログラムが大々的に始まりました。

11 月 29 日に実施された直近のプログラムには、2 人の国際的リーダーであるジェニファー・ジョーンズ直前国際会長と元アジア地域会長リタ・ヘチアラチチを招き、この幅広いテーマに関しての意見を聞きました。

コロンボクラブ、誕生日おめでとう！

スリランカのコロンボワイズメンズクラブは、12 月 3 日にチャーター 90 周年を祝いました。おめでとうございます！ワイズメンズクラブ国際協会は、当時コロンボ YMCA 総主事であった R・O・ビュエルが米国のミネアポリスで開催された国際大会に出席してスリランカ（旧セイロン）に帰国後、その存在がスリランカに紹介されました。コロンボクラブは、1929 年に設立準備を開始し、セイロン総督であった故サー・オリバー・グーネティレックをチャーター会長として、1930 年 12 月 3 日にチャーター認証を受けました。



8 ページからの続き

分が最も重要であるのかを判断しなければなりません。概して、私たちは、権力者の視点から書かれた歴史を耳にします。なぜなら、通常彼らが歴史を記述するからです。私たちの責任は、権力者以外の視点から書かれた歴史にも目を向けるように調査を多様化させることです。特に権力を殆ど、もしくは全く持たず、度々自らの歴史を記述する事から除外された人達の視点にも目を向ける必要があります。虐げられ抑圧された人々（民族）の視点が彼ら自身によってありていに漏れなく語られる事が不可欠です。そして彼らが生活し経験した歴史に注意深く耳を傾けることが肝要です。何故なら虐げら

れ抑圧された人々（民族）が実際に生きて来た歴史が、現在私たちが住む社会に彼らがどのように対応するかに影響を与えるからです。BLM（黒人の命の大切さを訴える運動）やウォータープロテクターズ（世界の水資源を汚染から守る活動）やその他の虐げられたグループの視点から見た歴史に心から目を向けようと努めるなら、彼らの怒りと焦燥をより深く理解し、より積極的かつ実効性のある方法で出来事に対応する事が出来るでしょう。虐げられ抑圧された人々（民族）が語る事を丸呑みする必要はないのですが、出来る限り理解しようとする必要はあります。何故なら彼らもまた、私が傾聴し学べべき歴史の記述者であるからです。

ケニア:食事、楽しみ、交流、そして2つの新しいクラブ

10月31日と11月1日の週末をまたぐ2日間、エスター・カモシュ部長は、ケニアのワイズメンクラブのチームを率いて、ケニア東部のキトゥイ郡の都市部にあるムトモを訪問しました。

私たちは、ムトモで愛の輪を広げ、社会奉仕活動を行いました。また、ムトモ Y サービスクラブとキトゥイ・ワイズユースクラブの2つのクラブを新メンバーでチャーターしました。

週末の旅の最初の目的地は、キコテック・テキスタイル工場でした。そこで私たちのグループは、ンギル郡知事の素晴らしい活動を紹介されました。知事は、親切にもワイズメンをキコテックに招待し、私たちにプレゼントを贈り、豪華な朝食を提供しました。その後、チームは、アイザック・カルアの「グリーン・アフリカ」へと向かいました。またもや素晴らしいツアーが行われ、さらに多くの食事が提供されました。要するに、食べ物とお楽しみと交流がありました。

日曜日に、一行は、ワイズメンの一人であるアフィア・ムテムを訪問しました。彼女は先日、夫を亡くしたので、いくつかのギフトを彼女に贈りました。思いやりは、ワイズメンズク



2日間のミッションに参加した熱狂的なケニアのワイズメンズクラブチーム

ラブ国際協会の一部です。楽しさと親睦を深めることは、私たちの運動の成長に不可欠なもので、マチャコス町やモンバサとマトゥと他の場所でも新クラブをチャーターすることでより多くの楽しみと親睦を持つ計画をしています。

モリス・キムリ、ケニア・ワイズメンズクラブ
アフリカ南東区



エスター・カモシュ部長がムトモ Y サービスクラブ会長に加盟認承状を手渡し、トム・ワカ地域会長がキトゥイ・ワイズユースクラブ会長に加盟認承状を手渡しました。アイザック・カルアの農場に苗木を植え、豪華な食事を囲んで親睦を深めました。

香港:中秋節祭

尖沙咀(チムサーチョイ)ワイズメンズクラブと香港 YMCA が、「中秋に愛」を祭りの期間中の2020年9月26日に同窓会と祈祷会の合同式典を開催し、再びパートナーシップの精神を示しました。この日は、200個の「祝福の袋」が、低所得労働者やその家族が南アジア出身の移住労働者と一緒に暮らしているシャム・スイ・ポー地区の高齢者に配られました。それぞれの袋には、タイの香りのする2キログラムの米、キャノーラ油 900ml ボトルと黒豆ソース

漬デイス(魚)の缶詰が入っていました。香港 YMCA のピーター・ホー総主事/CEO の参加と激励とリーダーシップに感謝します。西九龍 YMCA ビーコンセンター生涯学習研究所のスタッフがガブリエル・リークラブ会長とクラブメンバーがこの社会活動を成功させるために協力してくれました。

元理事 アンディ・フー



尖沙咀ワイズメンズクラブのメンバーと香港 YMCA のスタッフが社会奉仕活動を行いました。

地域からのニュース

ロシア：亡くなった同胞を追悼して



9月、79年前の同月8日にサンクトペテルブルク（旧レニングラード）の包囲が始まり、900日近く続いたことから、同市の住民にとっては悲劇的な月となっています。レニングラードでは負傷と飢餓で100万人以上の死者が出ました。

毎年、サンクトペテルブルク・ワイズメンズクラブは、ファルフォロフスコエ墓地に埋葬されている殉難者の名前を声に出して読み上げることで、その犠牲を偲んでいます（上の写真参照）。この公園は、過去9年間、サンクトペテルブルククラブのワイズメンによって管理されてきました。

出典：マリナ・マカロワ元区理事のフェイスブックページ

新国際ユース代表



ドワイト・トムリン君、2020-2021年のワイズメンズクラブ国際協会・国際ユース代表に選ばれておめでとう！ワイズ運動におけるユースの活動を推進するという挑戦的な任務に全力を尽くしてください。

ドワイト・トムリンソンは、カナダ・カリブ海地域のジャマイカのサバンナ・ラ・マー・ワイズメンズクラブのメンバーです。

インド：「スター・オブ・ザ・デイ（その日のスター）」 － 45 日間のバーチャルリアリティ



西インド区第4部は、マシュー・ジョセフ部長のリーダーシップのもと、新型コロナウイルス感染症による物理的な距離が必ずしも社会的な取り組みと親睦の妨げにならないことを成功裏に証明しました。「スター・オブ・ザ・デイ」（その日のスター）プログラムは、バーチャルプラットフォーム上で構成されました。8月1日から9月15日までの45日間、毎日、クラブのメンバーとリーダーが一堂に会し、ワイズ運動や社会全般についての交流と知識の向上を図りました。

好評を博したプログラムは、すべての人がお互いを知り、友情と親睦を深めるのに役立ちました。クラブリーダーが紹介され、彼らは、参加者にプロジェクトやプログラムの概要を伝え、他の参加者に刺激を与え、また、ワイズ運動の崇高なビジョンをよりよく理解する助けとなりました。

カリブ海：ユニークな バーチャルコンサート

マンデビル Y サービスクラブは、2020年9月4日に Zoom プラットフォームでバーチャルコンサートを開催しました。このコンサートは、医療従事者のための移動式ウェルネスクリニックの実現を支援するものでした。それが多くの人にとって非常に楽しい、素晴らしい体験であったという事実は、コンサートに参加した人たちの反応にも裏付けられています。



アメリカ：北大西洋区の様々な活動

地域奉仕の日

ワイズアメリカ地域の呼びかけに応じて2020年10月24日を地域奉仕の日として北大西洋区のワイズメンが地域奉仕を行いました。国際的な非営利組織である「ハビタット・フォー・ヒューマニティ」を支援して、ニュージャージー州の郊外に住宅を建てる作業に様々なクラブから15名の会員が集まりました。朝7:30に集まり、「ハビタット」の専門家の指導のもと、塗



一日の重労働を終えたあとの1枚



装、裏庭への土の搬入、階段や窓枠の組み立てなどの4つのグループに分かれ作業を始めました。

この一日の仕事の結果、これまで自分の家を持てなかった、私たちより恵まれ

恵まれない人々のための家を「ハビタット・フォー・ヒューマニティ」と連携して建設

ていない人たちを助けることができました。「ハビタット」の責任者のアシュリー・ビッグスは、私たちの作業に謝意を表し、「このようなことによって、「ハビタット」の使命である私たちの地域社会で恵まれていない人々が家を持つことを助けるという使命を達成できます。」と言いました。

また、ウエストチェスタークラブは、ニューヨーク州ヨンカーのスプレイン・リッジ公園で2020年10月17日に地域奉仕を行いました。21人の会員が、公園のスタッフを助け、公園の枯れ

葉を集め、木のチップを散布し、葉の刈り込み、ごみ処理などの作業を行いました。ワイズの会員にとっては、自分の所属する地域社会に奉仕し、地域でのワイズのイメージを高める大変良い機会となりました。ウエストチェスター地域公園委員会の責任者のキャサリン・オコナーが立ち寄り、ボランティア活動に感謝しました。



落ち葉をかき集める準備中

コート、サンドイッチ、そして学用品 —これらすべて私たちのウエストチェスタークラブから

ウエストチェスタークラブは2020年11月にニューヨークのマウントヴァーノンプラザ・ファミリーシェルターでの催しで、マウントヴァーノンにある2つのシェルターに収容されているホームレスの子供たちに150着のコートを寄贈しました。これらのコートは、ワイズの仲間からの献金で購入したものです。マウントヴァーノン校区教育委員会の長であるダーシー・ミラーは、ワイズの会員有志の申し出に対して心からの謝意を示しました。学校当局の長であるハミルトン博士が、両施設の責任者にこれらのコートを正式に



ウエストチェスタークラブのメンバー。分配のために手に入れたコートとともに



ホームレスの人々のためにサンドイッチを準備するクラブメンバー

手渡しました。ワイズの会員数名がコロナ禍のルールを順守して、その集まりに参加しました。

ワイズの仲間たちは、さらに、2020年9月14日には、ホームレスの子供たちのため250人分のサンドイッチを準備し、ブロンクスにあるイマキュレート・コンセプション教会に350袋のパンと同時に届けました。同じ日に、他に、ニューヨーク市ブロンクス・リヴァーデールのシスターズ・オブ・チャリティーに80袋のパンを届けました。さらに、NAACP（全米黒人地位向上協会）のスプリング・バレー支部に生徒の学用品を届けました。これらの用品は、それを必要とする子供たちの間で分けられます。このことによって、学校が始まる前に、今まで不利な状況にあった子供たちの準備が整うことになります。

このページの記事は、北大西洋区理事のジョセフ・カンジャマ理事の投稿

アメリカ：地域 YMCA プロジェクト支援のラッフル募金活動

過去31年間、米国・ノースカロライナ州のサウスローワンYサービスクラブは、毎年恒例のラッフル募金活動を行い、地元コミュニティの多くのプロジェクトを支援してきました。

サウスローワンYサービスクラブは、1988年に設立され、最初の車の抽選会は、1989年夏に行われました。カナポリス在住のミルトン・テイラーは、その年に白い幌の赤いフォード・スタング・オープンカーを獲得しました。売上金は、サウスYMCAが購入を計画していたバスのために支払われました。

今年、2ヶ月間、1枚150米ドルで約250枚のチケットが販売され、最終抽選会が9月に行われました。今年の幸運な当選者は、ランディス在住のブライアン・タドロックでした。彼の父親は、サウスローワンYサービスクラブの創設者の一人、フランクで、彼は、最初の、車を景品とするプロジェクトを実施しました。ブライアンは、2020年型フォード・エスケープSUVが現金で18,000米ドルのどちらかを選ぶことができましたが、彼は、後者を選びました。サウスローワンYサービスクラブは、車の景品プロジェクトからの資金を使い、コミュニティに様々な支援を行っています。今年の収益金は、YMCAの設備の新しい洗浄機と消耗品、キャンペーンの支援、YMCAの改修、メインストリートミッション、ミール



勝者ブライアン・タドロックに小切手を贈るクロニンガー・フォード社のロン・ラブレ。写真は、ブライアンの母、スー・タドロック、車プロジェクト・コーディネーターのデビッド、ゲイ・ロバーツ理事、ブルース・ミラー。撮影は、クラブ会員のデビッド・フリーズ

ズ・オン・ウィールズ、ローワン・リテラシー評議会を含む多くの活動のために使われます。クロニンガー・フォード社、特にラリー・クロニンガーとネイサン・ピールに、31年間のパートナーシップおよびYMCAと私たちのコミュニティを支援頂いていることに感謝致します。

サウスローワンYサービスクラブ
副会長テリー・ブラッドリー

カナダ：オーウェンサウンド YMCA 平和章 2020

カナダ・オンタリオ州オーウェンサウンドに住む19歳の大学生ジリアン・ライマンさんは、1,000人以上のコミュニティのメンバーを集めて、市庁舎とオーウェンサウンド黒人歴史記念碑の間を平和的に行進し、「黒人の命も大切

だ」運動を支援した事が評価され、2020度YMCA平和章を授与されました。

猛暑の夏の日、新型コロナウイルスの影響で多くの人が家に閉じこもっていた時期に、ジリアンの行動の呼び掛けが聞かれました。メッセージは、明確でした。人種差別と不正は、私たちのコミュニティには居場所がありません。彼女の行進の経験は、学んでいた社会学のコースを人種や性の不平等について焦点を置くことに変更させました。「それは、間違いなく私が行くことへの展望を変えました。」「私は、オーウェンサウンドの中だけでなく、もっと多くの人に広めたいと思っています。」と彼女は言いました。「平和と正義ネットワーク」のマイケル・マクルーハンは、「2万人しかいない私たちの街で、1,000人が何かについての行進に参加するのを見たことがない」と述べています。平和賞委員会は、オーウェンYサービスクラブとYMCAの具体的な連携活動のひとつです。

カナダ/カリブ海諸国地域・次期会長
ブライアン・ミニエリー



左から右へ。コートニー・オドノヒュー / YMCA スタッフ、ジリアン・ライマン / 受章者、ブライアン・ミニエリー / Yサービスクラブ、ゲイル・グラハム / YMCA 責任者、マイケル・マクルーハン / 平和と正義ネットワーク

インド：偉大なる介入 腎臓ケアユニット寄贈

トリバンドラム・ワイズメンズクラブ(インド南西部)は、9月20日にトリバンドラムのインド病院に透析装置を設置し、無料で腎臓患者を支援する一大プロジェクトとして寄贈しました。必要額の520,000インドルピー(約7,000米ドル)を集めるのは、大変な作業でした。トーマス・タラカン会長とプロジェクトコーディネーターであるアマナ・ジョセフ夫人が中心となって1ヶ月以内に必要額を集めました。この機械を使って毎週18回行われている人工透析のうち、12回は、クラブから推薦された患者のために無料にする事が病院と合意されています。病院は、1回の透析で1,200インドルピー(約16.50米ドル)の料金を徴収していますが、この機械が機能する8年間で最大5,000回の無料透析を行う事が出来ます。貧困層がこのプロジェクトから得られる利益は、約600万インドルピー(約81,500米ドル)になります。



地域会長のシャハナバスカンが透析装置の寄贈を祝う、テープカットを行いました。

「家族の食事」の取り組み、 バンガロール・カントンメントクラブ

南インド区I部のバンガロール・カントンメントクラブの指導の下にバンガロール郊外の村でパンデミックによって引き起



部長、副理事立ち合いの下、クラブ会長が2人の対象者に食料品キットを手渡しています。

命の川を信じよう

こされた経済不況によって生活が影響を受けている10家族を選び、次の10ヶ月間、それぞれ1,000インドルピー(約13.50米ドル)にあたる毎月の食料品キットを受け取る事が出来るようにしました。「家族の食事」と呼ばれるそれは、部内の全てのクラブを含む部プロジェクトとして設定されています。最初の食料品キットは、10月に部長と副理事立ち合いの下で配布されました。

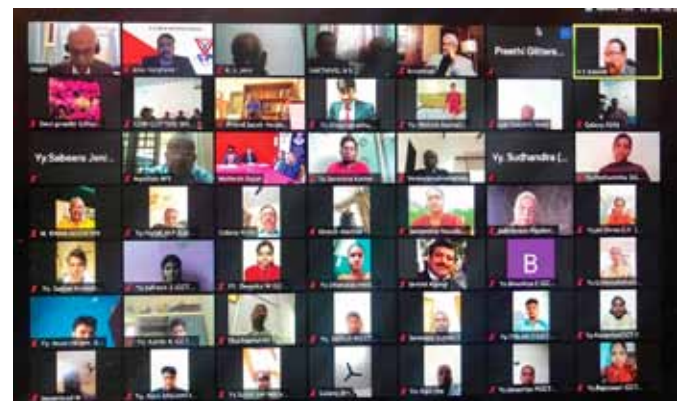
特別な子供たちへの特別な思い

トリバンドラム・エンジェルズワイズウィメンズクラブでは、毎年、特別なニーズのある子供たちと一緒に世界障がい者デーを祝っていました。今年は、世界的なパンデミックの影響で、クラブメンバーは、子供たちと直接会う事を控えていましたが、クラブメンバーは、トリバンドラムのある特別ケアホームの子供たちのために服やおもちゃ、チョコレートを集め、その管理人に手渡しました。今年のこの日のテーマは、「誰かの雲の中の虹になろう」で、誰かを幸せに出来る様な小さな行動をするようクラブメンバーに呼びかけました。



ワオ!大規模なキャンペーン

南インド区西部の皆さま、ワイズメンズクラブ国際協会の100日間会員増強キャンペーンの一環として、1日で104名の新規入会者を獲得されたことをお祝いたします。



1939-1950 年の国際会長



13. ジョン・L・マッデン
(1901-1973)
1939-1940の国際会長
ホームクラブ: モンロー (米国・
ルイジアナ州)

法律家で、後にルイジアナ州
の司法長官を務めた。



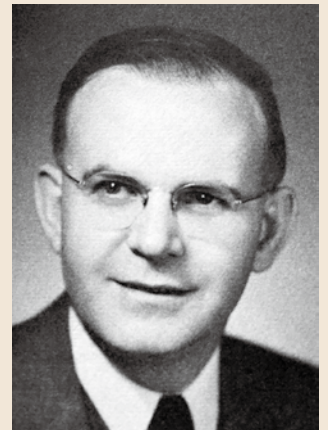
16. オスカー・グルノー
(1899-1978)
1942年の2か月間の国際会長
ホームクラブ: ダラス (米国・テ
キサス州)

1942年の国際大会で国際会
長に選ばれた。2か月後に陸軍に
入隊し辞職したため国際会長の
任期は、極めて短かった。

14. F・スタンレー・ジェイムズ
(1901-1958)
1940-1941の国際会長
ホームクラブ: サドバリー (カナ
ダ・オンタリオ州)
会計士でYMCAの強力な支
援者であった。



17. ジョセフ・コネル
1942年の5日間の国際会長
ホームクラブ: スーセントマリー (カナダ・オンタリオ州)
国際会長就任の5日後にカ
ナダ空軍に召集された (従軍
1942-1945) ので、恐らく最も短
い任期であった国際会長であ
る。彼は、少年のために働くこ
とにひたむきであり、YMCAの
少年事業に献身した。



15. ジョージ・W・ケイテル (1907-1979)
1941-1942の国際会長
ホームクラブ: ハリスバーグ (米国・ペンシルベニア州)



初代のヒストリアンで、3冊のヒ
ストリーブックの内、2冊を執筆し
た。職業は、法律家であったが、
印刷と出版の経験もあった。彼の
ユニークなことは、パーキンソン病
を患っていて、書いたりタイプし
たりすることが困難だったことであ
る。妻のバーサが彼を助け、彼
女は、その業績に対して、1976年
にハリー・M・バラントイン賞を受
賞した。これは、女性として2人目の受賞であった。

18. ヒュー・E・チャンス (1911-1998)
1942-44の国際会長
ホームクラブ: マスカチンダベンポート (米国・アイオワ州)



1944-46年には軍に入隊。法
律家であり、ディベートに長けて
いたこと (高校時代も) で知られ
ている。

1939-1950 年の国際会長



19. チャールス・L・ミラー
(1907-1985)
1944-1945の国際会長
ホームクラブ: パターソン
(米国・ニュージャージー州)
保険会社に勤務。1930年代
に、大人になって小児麻痺に
罹ったが、まれなことであるが、回
復した。



22. デイビッド・J・コヒー
(1913-2010)
1947-1948の国際会長
ホームクラブ: フレデリクトン
(カナダ・ニューブランズウィッ
ク州)
カナダ・ニューブランズウィッ
ク州フレデリクトンの高校で教育
者であった。

20. ウィリアム・M・レディットJR(1909-1980)
1945-1946の国際会長
ホームクラブ: シュリーブポート(米国・ルイジアナ州)
シュリーブポート市に勤務した
が、やがて石油産業に移った。
彼の家族の系譜について、数冊
の本を出版した。



23. ジョージ・グールド(1917-1982)
1948-1949の国際会長
ホームクラブ: テンプルシティー
(米国・カリフォルニア州)
彼の家族は、水道会社を所
有していて、この会社は、やがて
SoCalウォーター社になった。



21. ハバート・M・ウイーバー(1900-1987)
1946-1947の国際会長
ホームクラブ: サウスベンド(米国・インディアナ州)



不動産鑑定士。生涯を通し
てYMCA活動に非常に積極
的で、また魚釣りを愛した。

24. ロロ・G・スメッサーズ(1924-1986)
1949-1950の国際会長
ホームクラブ: ハリスバーグ(米国・ペンシルベニア州)



彼は、ロッキード・マーチン社の
デザイン技術者であった。1970
年に「航空機の貨物搭載と回収
装置」の特許を取得した。

COME TO HAWAII IN 2022

2022 年にはハワイにお越しください。

Y's Men's International will be celebrating a century of service in 2022, and the USA Area cordially invites you to join us in celebrating our 100th Anniversary at the 75th International Convention be held in August 2022 in Honolulu, Hawaii - the 50th State of the United States.

ワイズメンズクラブ国際協会は、2022 年に創設 100 周年を迎えます。米国地域は、2022 年 8 月に、米国 50 番目の州であるハワイで開催される第 75 回国際大会に、100 周年を祝って皆さまに参加いただくことを心からお待ちしています。

さあ、天国で一緒にしましょう！

第 75 回国際大会

2022 年 8 月 ハワイ州ホノルル

*Join us in Paradise!
75th International Convention
Honolulu, Hawaii in August 2022*

ハワイ・コンベンションセンター
1801 カラカウア通り
ホノルル, ハワイ 96815

HAWAIITM
CONVENTION CENTER

1801 Kalakaua Avenue
Honolulu, HI 96815